

全国高等学校家庭科被服製作 技術検定〔洋服〕2級1級を受検

〔洋服〕2級：ブラウスの製作

7月1日（土）に、生活文化科2年生ファッション選択者7名が家庭科技術検定〔洋服〕2級の実技試験を受けました。

〔事前作業〕あらかじめ、「型紙作り、裁断、しるしつけ、えり作り」など、検定基準に従って準備を進めて当日を迎えました。



〔実技検定〕以下の内容を3時間で実施（製作）しました。

- ①切り替え縫い ②あきの始末 ③肩縫い ④えりつけ ⑤そで作りそでつけ
⑥わき縫い ⑦すその始末



〔事後作業〕検定終了後、ボタンホール・ボタンつけ、糸の始末、作品氏名表つけを行い完成です。8月22日（火）に岐阜県の合同審査が行われ、合否が決定します。



【完成した7人のブラウス（後ろ身頃に切り替えを入れたデザイン）】

〔生徒の感想〕

- 自分がいつも着ているようなブラウスを作るために、こんなにも手間がかかっているのだと驚きました。えりつけやそでつけなど難しい工程を自分一人でできるようになり嬉しかったし、達成感を感じました。
- 検定では、えりつけ止まりがずれないように意識をして、ぴったり縫うことができたので良かったです。
- ロックミシンかけを何度も練習しました。検定では布端を切りすぎることなく、ロックミシンかけができて良かったです。

〔洋服〕 1級：総裏付きジャケットの製作

7月8日（土）に生活文化科3年生ファッション選択者7名が家庭科技術検定〔洋服〕1級の実技試験を受けました。

〔事前作業〕 あらかじめ、「型紙作り、裁断、接着芯貼り、しるし付け、ポケット作りつけ、そで作り、見返しと裏布の縫い合わせ」など、検定基準に従って準備を進めて当日を迎えました。

〔実技検定〕 当日の朝、審査員の先生（今回は瑞浪高校の先生）に、事前作業が基準通りに仕上がっているかを一人一人審査していただきました。その後、以下の内容を4時間で実施（製作）しました。

①肩縫い ②えりぐり、前端縫い ③わき縫い ④すその始末 ⑤右そで付け



〔事後作業〕 検定終了後、左そでつけ、えりぐり・前端的星止め、糸始末、氏名票つけを行い完成しました。8月22日に岐阜県の合同審査が行われ、合否が決定します。



〔生徒の感想〕

- ・裏地の裁断は布地が滑りやすく、昨年スカート製作で行ったことはありましたが、今回のジャケットは縫い合わせのパーツの形が複雑で、苦労しました。
- ・事前準備の作業が多く大変でしたが、作品が完成した時の達成感は、大きかったです。
- ・布の表裏や左右、前後に気を付けて縫い合わせていくにつれて、ジャケットの形がだんだんできていくのがとても嬉しかったです。
- ・仕上げの段階でいろいろな種類の手縫いができるようになり、特に「たてまつり」を綺麗に仕上げるのが大変でした。今回習ったことを、卒業発表会の作品作りに活かしたい。

